

令和3年度

学校自己評価まとめ

学校教育目標

知・徳・体の調和がとれ、
自立した生徒の育成

知：かしこく
徳：やさしく
体：たくましく

上田市長和町中学校組合立
依田窪南部中学校



令和3年度 学校自己評価

2022. 2. 17

上田市長和町中学校組合立依田窪南部中学校

昨年度比 (A,B評価) **+5%以上**

-5%以上

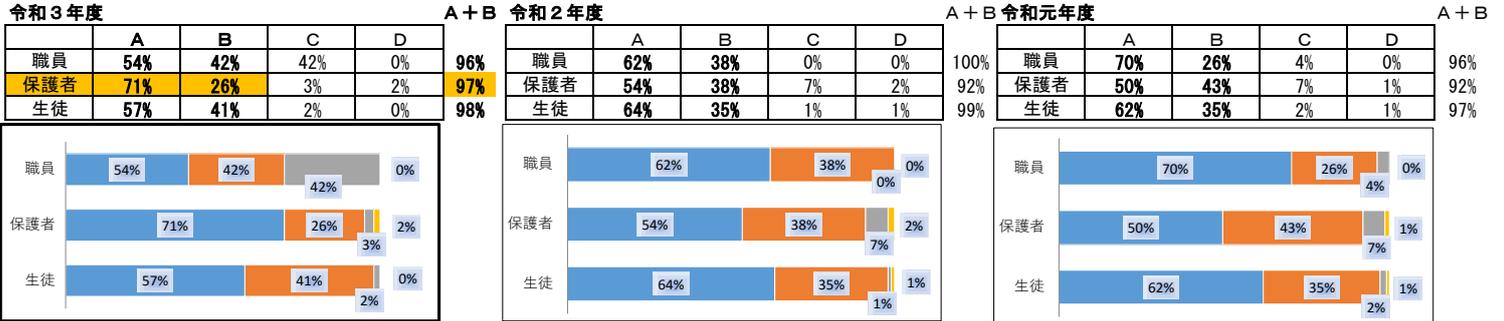
1. 結果と考察

※グラフ左から **A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:ややあてはまらない D:あてはまらない**

【質問項目1】 集団との関わり

- 【職員】 ①学級活動、生徒会活動、行事等で、生徒一人ひとりに役割を持たせることで、生徒が主体的に級友とかかわって活動しています。
- 【保護者】 ①授業参観や生徒(お子さん)の話から、生徒(お子さん)は級友と仲良かかわりながら学校生活を送っていると感じる。
- 【生徒】 ①学級活動、生徒会活動、行事等では、自分の役割を果たしながら、クラスのみならず、協力し合っています。

	生徒	保護者	職員
調査数	200	150	26

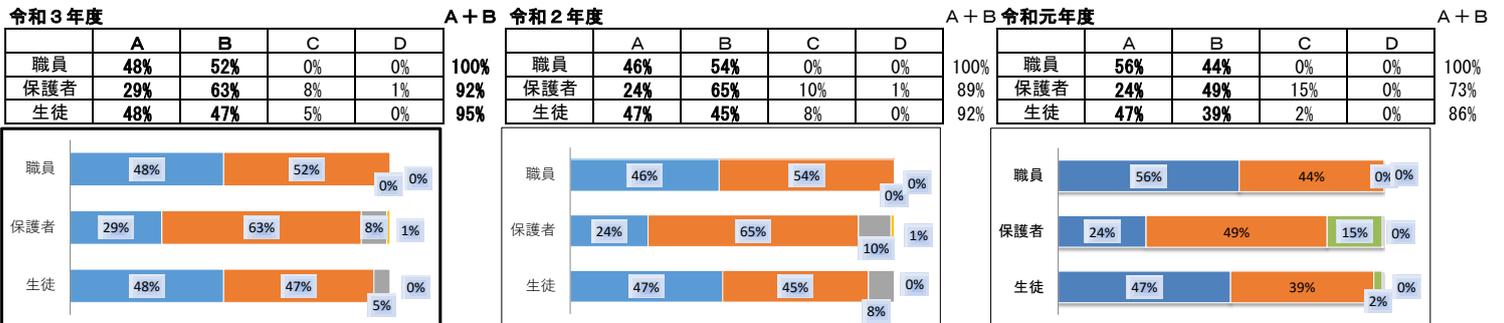


<考察>

コロナ禍が継続した今年度、4月と6月と10月の授業参観を未実施として、7月に自由参観日を2日間設けたが、「子どもが楽しく学習している様子を参観できて、よかった」などの声が多く寄せられた。昨年度と比べて保護者のA,B評価が5%上昇するなど、3者共高評価となっている。集団の質がさらに向上するような支援をしていく。

【質問項目2】 友だちとの関わり

- 【職員】 ②集団の中の自分の姿や集団のあり方を考えさせることで、生徒が友だちの気持ちを考えてたり自分の気持ちを相手に伝えたりしながら学校生活を送っています。
- 【保護者】 ②生徒(お子さん)は、相手の気持ちを大切にしたり、自分の考えを相手に伝えたりすることができる。
- 【生徒】 ②集団の中の自分の姿や集団のあり方を考えることで、友だちの気持ちを考えてたり自分の気持ちを相手に伝えたりしながら、学校生活を送っています。

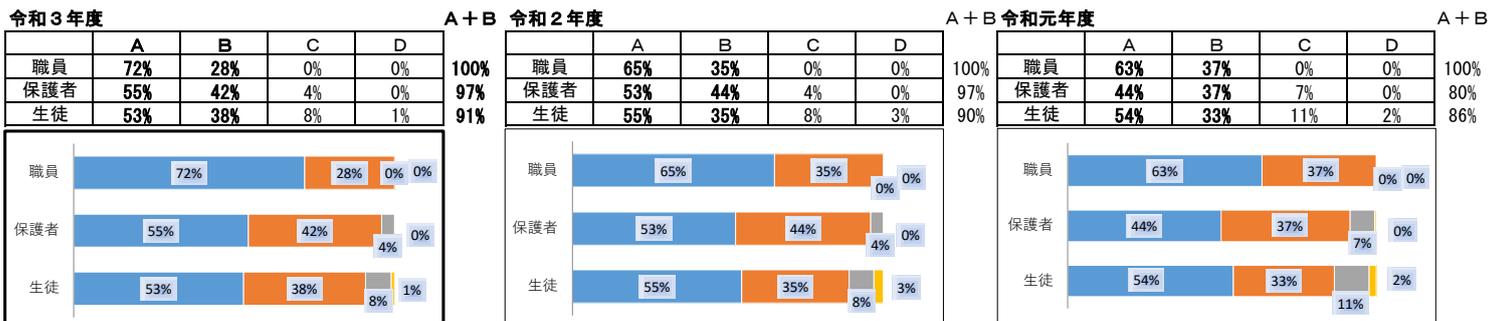


<考察>

昨年度と比べて、保護者と生徒のA,B評価が若干増加している。道徳の教科化がスタートして、各学年では足並みをそろえて心を耕す道徳教育に取り組んでいる。友人関係から起る大きなトラブルもなく、一人一人の生徒が他者を思いやることを日常的に心がけている成果と考察できる。5%のC評価生徒に、心を寄せて支援していきたい。

【質問項目3】 達成感や楽しさ

- 【職員】 ③学級活動、生徒会活動、行事、部活動等で、人間関係づくりの場や生徒自らが主体的に活動に取り組む場を設定することで、集団としてのまとまりが向上し、生徒一人ひとりが個々の良さを発揮できています。
- 【保護者】 ③学校での集団活動を通じて、生徒(お子さん)が成長していると感じる。
- 【生徒】 ③学級活動、生徒会活動、行事、部活動等で、達成感や楽しさを感じながら、自分から積極的に活動に取り組んでいます。

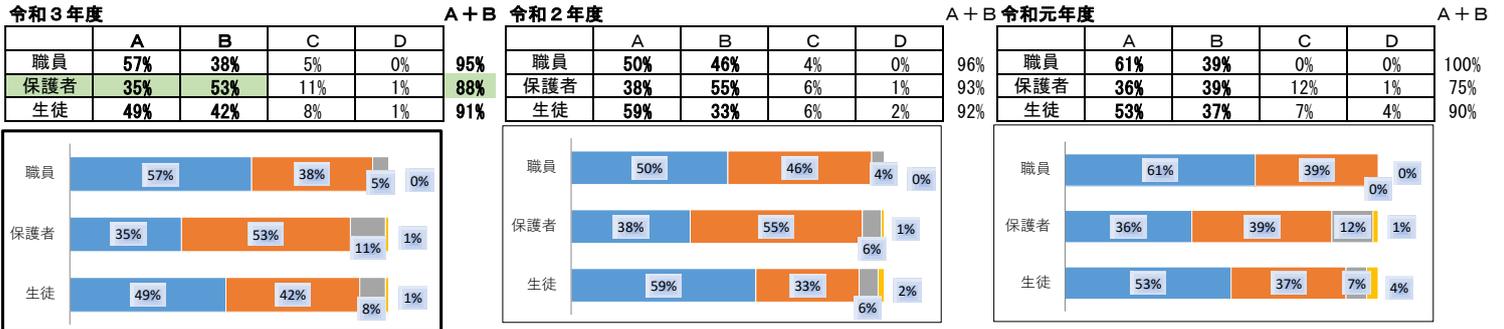


<考察>

昨年度と同じく高い評価となっていて、学校生活に満足感を感じ、自分の成長を実体験できる生徒の姿がわかる。コロナ禍で大きな制約を受けることが日常となっている中、主体的かつ積極的に集団活動に取り組み、自己の能力を高め、個性に磨きをかけていこうとする点がすばらしい。さらに伸ばすよう、支援を重ねていく。

【質問項目 4】 相談・生徒理解

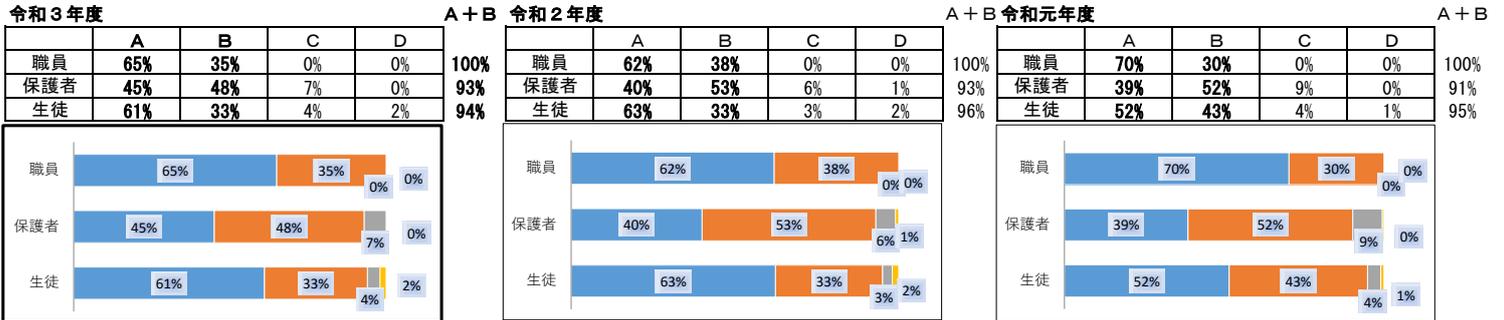
- 【職員】 ④生徒を深く理解し支援するために、生徒の実態把握に努め、生徒に声をかけたり相談に乗ったりしながら、日々個々に応じたかかわりを持つことができています。
- 【保護者】 ④学校の職員は生徒（お子さん）の理解に努めたり、何かあったときは相談に乗ったりしてくれます。
- 【生徒】 ④先生は自分のことをわかってくれたり、困った時は相談に乗ったりしてくれます。



<考察>
保護者のA B評価について、一昨年度と比べると13%増加しているものの、昨年度と比べると5%減少している。職員と生徒については、ほぼ同じ数値となっている。職員は生徒一人一人の個性に応じた支援を積み重ねていくとともに、生徒との関係のみならず、保護者との信頼関係をよりよいに築き、開かれた学校づくりに努めていく。

【質問項目 5】 人権教育

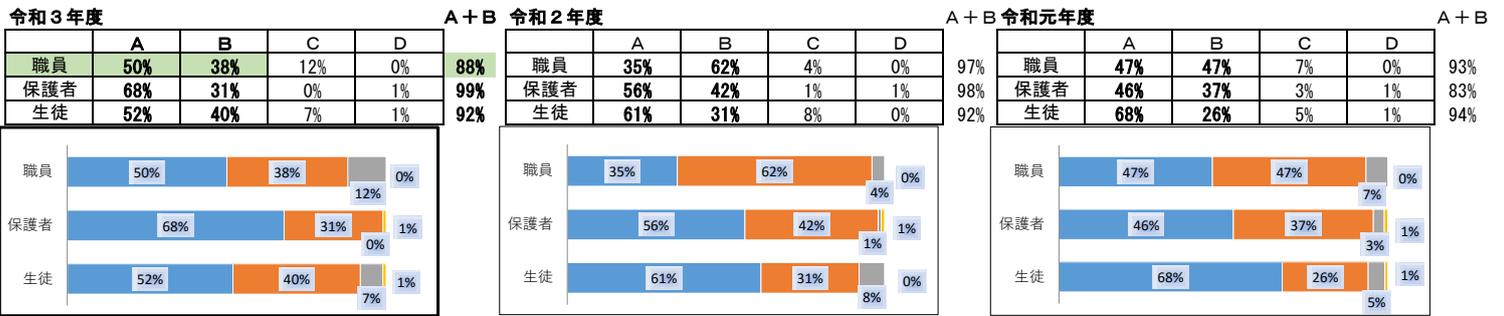
- 【職員】 ⑤人権教育や日々の教育活動の中で、生徒の人権感覚を高め、いじめや差別のない集団づくりに関わろうとする気持ちを育てています。
- 【保護者】 ⑤生徒（お子さん）は、人権教育での取り組みや日々の学校生活を通して、人のことを大切に思う気持ちや、いじめや差別のない集団づくりにかかわっていかうとする気持ちが育ってきていると感じる。
- 【生徒】 ⑤南中人権宣言を尊重し、人のことを大切に思う気持ちと、いじめや差別のない集団づくりにかかわっていかうとする気持ちを持っています。



<考察>
一昨年度及び昨年度と比べて、3者とも大きな変化はなく、高い評価となっている。日常生活の中で、道徳教育が継続的に実施されていることに加えて、1学期と2学期に人権教育月間を設定して、人権教育に積極的に取り組んできた成果と考察できる。生徒が日々「南中人権宣言」を意識して、他者や自分も大切にしている点が素晴らしい。

【質問項目 6】 清掃の取り組み

- 【職員】 ⑥清掃への取り組みの活性化を図ったり、ともに清掃に取り組んで現場指導をしたりすることで、生徒が進すすんで清掃に取り組んでいます。
- 【保護者】 ⑥来校した際は、校舎内外の清掃や整頓が行き届いていると感じられる。
- 【生徒】 ⑥無言清掃を心がけて、清掃にすすんで取り組んでいます。



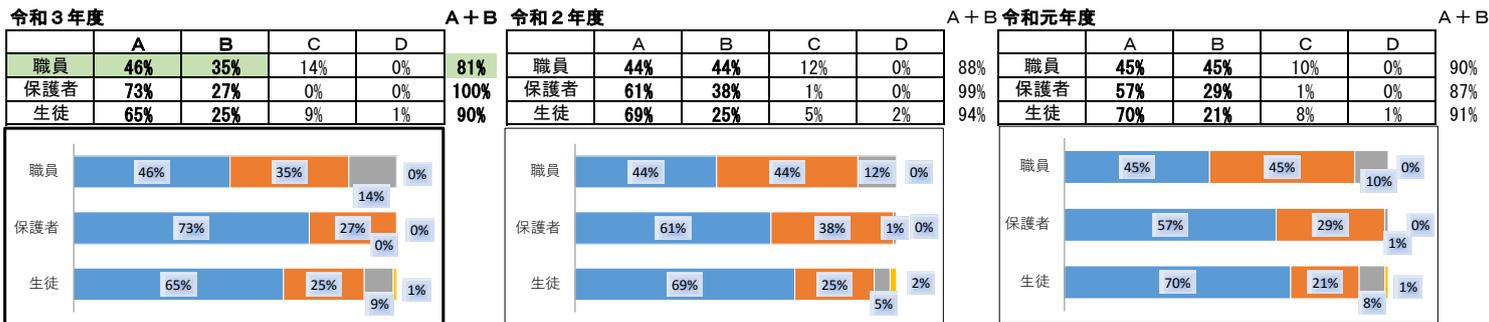
<考察>
昨年度と比べて、保護者と生徒の高評価は変化していないが、職員のA B評価が5%減少して、C評価が12%と大きく増加している。全職員が、清掃開始時の黙想から片付けまで清掃現場で生徒とともに活動しながら、清掃指導をしていくことを実践していきたい。生徒会の活動にも、職員が率先して関わっていくことが大切となる。

【質問項目 7】 下駄箱の靴そろえ

【職員】 ⑦声かけ等の意識喚起によって、生徒がすすんで下駄箱の靴をそろえています。

【保護者】 ⑦学校の昇降口は下駄箱の靴がそろったり、展示が充実したりし、気持ちのよい空間になっていると感じる。

【生徒】 ⑦自分からすすんで、下駄箱の靴をそろえています。



<考察>

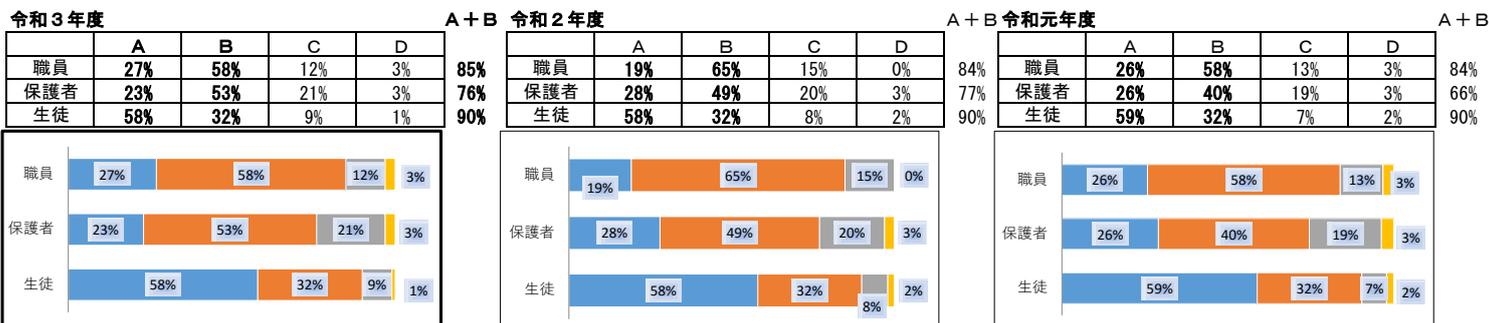
昨年度と比べて、保護者と生徒については引き続き、特に高評価となっている。生徒は意識的に下駄箱の靴をそろえ、そのことを習慣化している、と考察できる。一方、職員のA B評価が7%も減少している点は、注意喚起が十分でなかったことや、やや厳しい目で観察していることが要因と推測している。

【質問項目 8】 あいさつ

【職員】 ⑧学校、学年、学級、部活動などでの指導を工夫することで、学校や地域で、生徒は一人でもすすんであいさつしています。

【保護者】 ⑧生徒（お子さん）は、学校や地域ですすんであいさつをしている。

【生徒】 ⑧学校や地域で、自分からすすんであいさつをしています。



<考察>

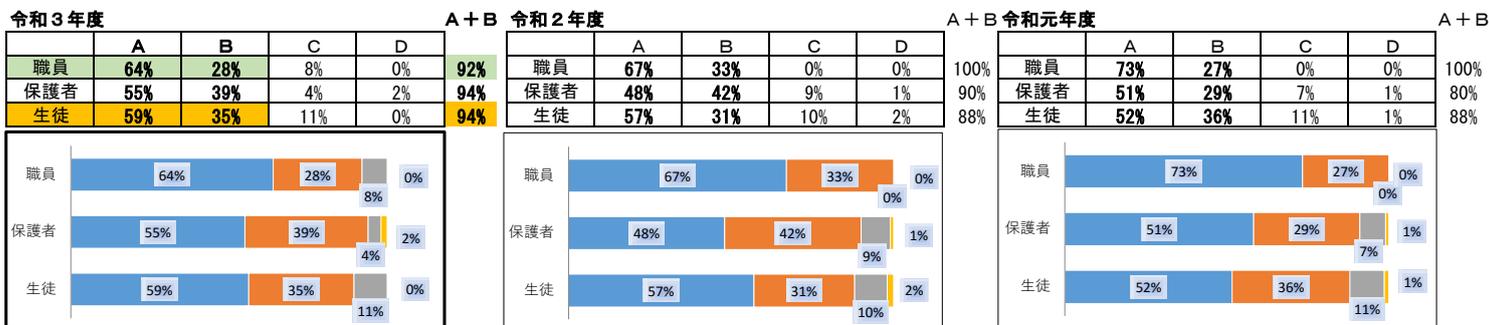
昨年度と比べて、3者のA B評価がほとんど変化していない。また、生徒自身の評価は高いものの、職員と保護者のB評価（ややあてはまる）が多く、両者の認識がやや異なる。学校のみならず、地域社会において気持ちの良いあいさつが進んでできるよう、職員が見本を示しながら生徒に働きかけていく。

【質問項目 9】 合唱活動

【職員】 ⑨合唱練習を学年集会や学級の活動に位置づけ、練習の時間を確保したり、発表の場を設けたり、職員自ら合唱に参加したりすることで、校内に日々生徒たちの歌声を響かせています。

【保護者】 ⑨文化祭や授業参観での姿、生徒（お子さん）の話から、南中の生徒は、全校、学年、学級での合唱に意欲的に取り組んでいると感じる。

【生徒】 ⑨合唱の良さや大切さがわかり、学年や学級、または集会等で、積極的に合唱に参加しています。



<考察>

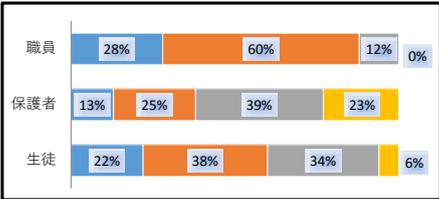
コロナ禍で、思うように合唱活動が出来ない時期があり、生徒には残念な日々が続いた。しかし、状況が好転した時期には、クラスや学年が集中して活動に取り組み、大きな成果を得たとほとんどの生徒が認識できた。特に11月の合唱祭では、各クラスや学年のすばらしい歌声が響き、聴く人々を感動させた。今後も、さらに盛り上げていく。

【質問項目 10】 家庭学習

【職員】 ⑩自学タイムを活用して学習計画を立てさせたり、家庭学習の方法や内容を指導したりすることで、生徒が目標時間（1年週70×7=490分・2年週80×7=560分・3年週90×7=630分）の家庭学習を行っています。
 【保護者】⑩生徒（お子さん）は、宿題や自主学習等に、学年目標時間（1年週70×7=490分・2年週80×7=560分・3年週90×7=630分）の家庭学習を行っている。
 【職員】 ⑩自学タイムを活用して学習計画を立て、宿題や自主学習をすることで、学年目標時間（1年週70×7=490分・2年週80×7=560分・3年週90×7=630分）家庭学習を行っています。

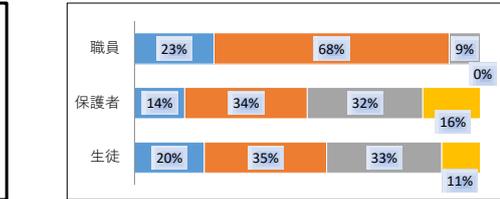
令和3年度

	A	B	C	D
職員	28%	60%	12%	0%
保護者	13%	25%	39%	23%
生徒	22%	38%	34%	6%



A+B 令和2年度

	A	B	C	D
職員	23%	68%	9%	0%
保護者	14%	34%	32%	16%
生徒	20%	35%	33%	11%



A+B 令和元年度

	A	B	C	D
職員	35%	46%	19%	0%
保護者	14%	29%	31%	14%
生徒	27%	42%	26%	5%



<考察>

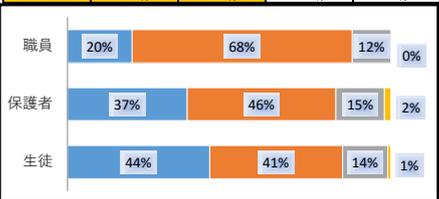
保護者の評価が昨年度と比べて、大きく落ち込んでいる。C評価(ややあてはまらない)とD評価(あてはまらない)の合計値が62%と大きく、保護者の3人のうち2人が、子どもの家庭学習をあまり評価していない。それに対して生徒のA B評価は5%増加していることから、両者の隔たりをうめるよう、職員は公正で適切な支援をしていく。

【質問項目 11】 生活習慣づくり

【職員】 ⑪学校からの通知や生活実態調査の結果などを活用して指導することで、生徒がより良い生活習慣づくり（「早寝・早起き・朝ごはん」）に取り組んでいます。
 【保護者】⑪ご家庭で、お子さんのより良い生活習慣づくり（早寝・早起き・朝ごはん）を意識した取り組みを心がけている。
 【生徒】 ⑪より良い生活習慣づくり（「早寝・早起き・朝ごはん」）に取り組んでいます。

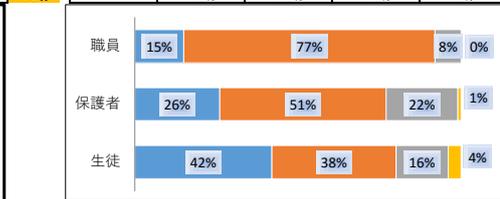
令和3年度

	A	B	C	D
職員	20%	68%	12%	0%
保護者	37%	46%	15%	2%
生徒	44%	41%	14%	1%



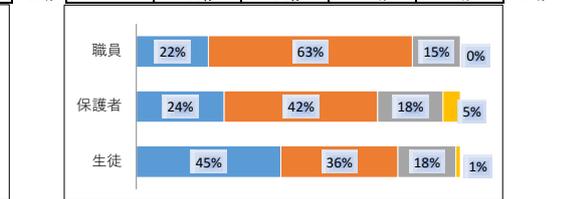
A+B 令和2年度

	A	B	C	D
職員	15%	77%	8%	0%
保護者	26%	51%	22%	1%
生徒	42%	38%	16%	4%



A+B 令和元年度

	A	B	C	D
職員	22%	63%	15%	0%
保護者	24%	42%	18%	5%
生徒	45%	36%	18%	1%



<考察>

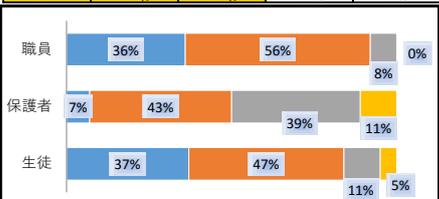
保護者と生徒のA B評価が、ともに5%増加している。常に新型コロナウイルス感染防止を意識した、より良い生活習慣づくりが図られている。このことは、コロナ禍という危機的状況の中、家庭生活において保護者が子どもの健康や安全を第一に考え、ていねいに支援してきた成果、と考察できる。学校でも家庭でも、さらに支援を充実させる。

【質問項目 12】 メディアコントロールの実践

【職員】 ⑫ノーメディアの必要性を指導することで、生徒がそれぞれの目標を持ってメディアコントロールの実践に取り組んでいます。
 【保護者】⑫メディアコントロールも取り組みは、家庭において家族の会話づくりや学習時間・読書時間の確保等を親子で見直す機会になっている。
 【生徒】 ⑫メディアコントロールに取り組むことで、学習時間や睡眠時間の確保について見直すことができています。

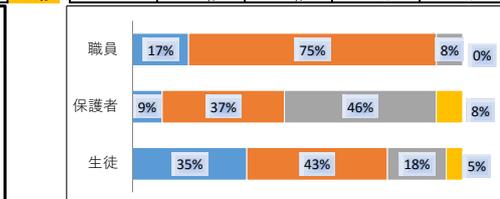
令和3年度

	A	B	C	D
職員	36%	56%	8%	0%
保護者	7%	43%	39%	11%
生徒	37%	47%	11%	5%



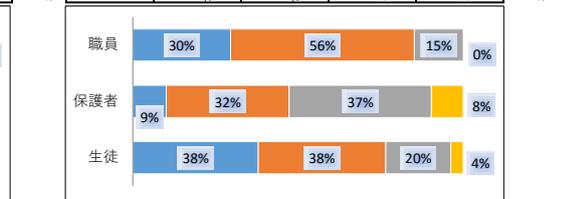
A+B 令和2年度

	A	B	C	D
職員	17%	75%	8%	0%
保護者	9%	37%	46%	8%
生徒	35%	43%	18%	5%



A+B 令和元年度

	A	B	C	D
職員	30%	56%	15%	0%
保護者	9%	32%	37%	8%
生徒	38%	38%	20%	4%

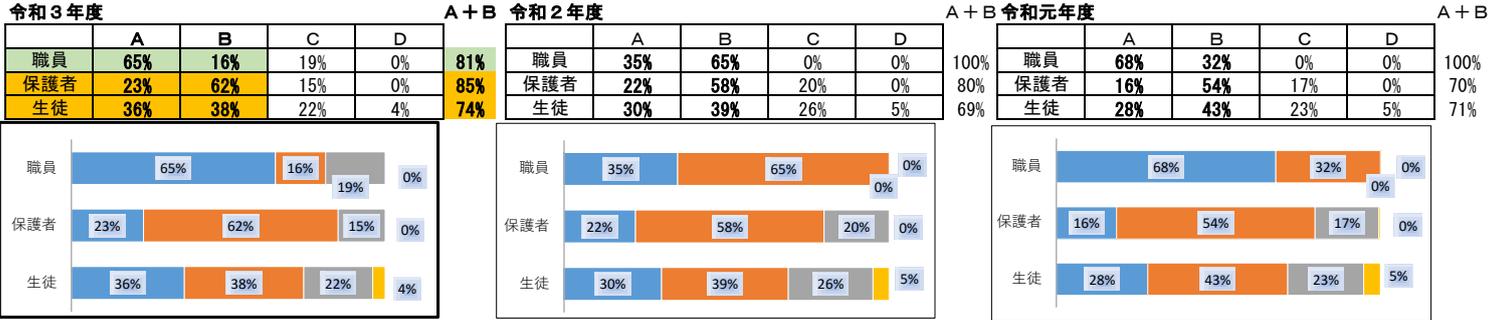


<考察>

子どもと直接接している保護者の評価がやや厳しく、A B評価がちょうど半分の50%となっている。他の調査結果から、一部の生徒の顕著なメディア依存や、家庭内でのルールづくりなどが課題となっていることが分かる。昨年度に比べて、改善していると考えられる生徒が増加していることも事実であるため、学校と家庭で一層連携していく。

【質問項目 1 3】 地域との連携

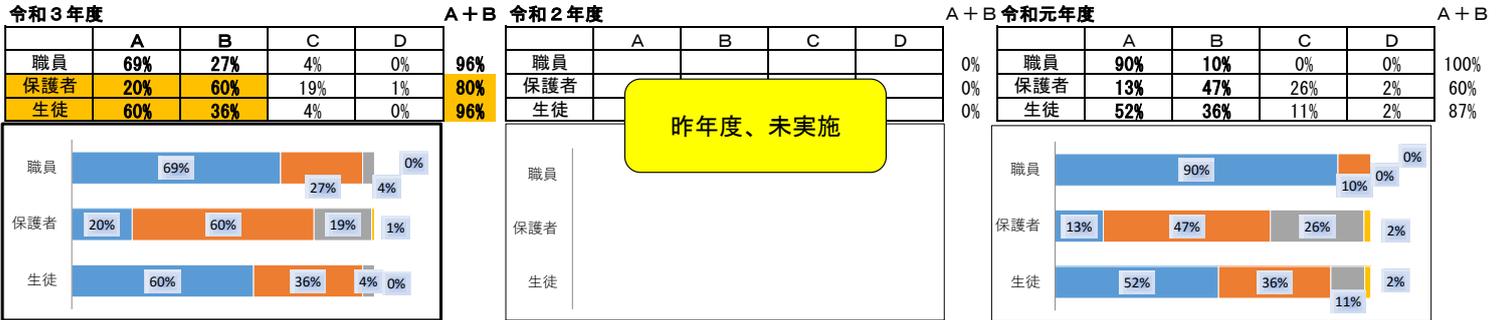
- 【職員】 ⑬地域との連携を大切に、教育活動を推進したり、地域の方々と交流したりしています。
- 【保護者】 ⑬お子さんの成長のためにご家庭では、学校や地域との連携を大切にしている。
- 【生徒】 ⑬依田窪地域の自然や農業、工業、商業、観光などについて興味や関心がもてています。



<考察>
 質問項目 1 4とも関連して、今年度は総合的な学習において地域の良さや未来を考える学習が充実していたことから、保護者と生徒のA B評価がそれぞれ5%増加した。今後、コロナ禍が継続したとしても、地域の産業や伝統文化に興味関心を高めていけるような学習場面を設定していきたい。また、地域活動・行事への参加を支援していく。

【質問項目 1 4】 総合的な学習の時間（地域学習・キャリア教育）

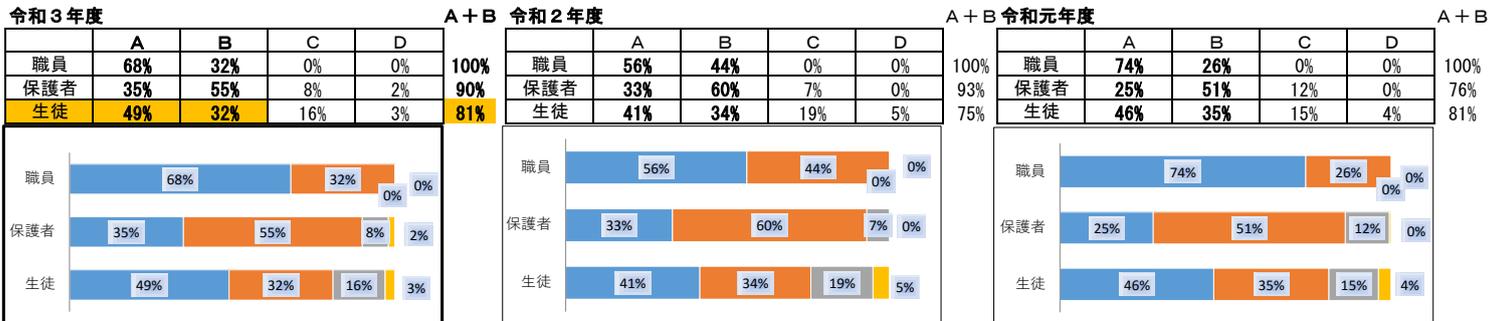
- 【職員】 ⑭1年：地域発見，2年：職場体験，3年：地域未来プロジェクトの学習を通して、子供たちにこの地域のよさを実感できるようにしています。
- 【保護者】 ⑭生徒（お子さん）は、総合的な学習や行事を通じて地域に関心をもつようになってきたと感じる。
- 【生徒】 ⑭1年：地域発見，2年：職場体験，3年：地域未来プロジェクトなどの学習を通して、この地域のよさを発見したり、実感したりすることができています。



<考察>
 昨年度は未実施であったため、一昨年度と比べると、保護者と生徒のA B評価が大幅に増加するなど高評価になっている。特に、計画 → 実行 → 発表・反省という流れでの学習に対して、積極的に取り組む生徒の姿が多く見られた。また、ともに地域で生きる方々や保護者からの適切なアドバイスが学習をより効果的なものにした。

【質問項目 1 5】 家庭との連携

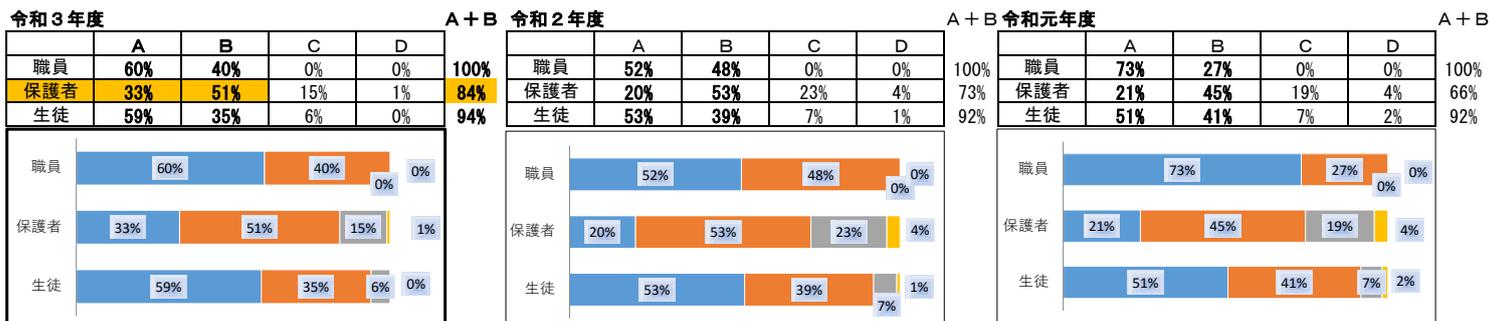
- 【職員】 ⑮保護者の話をよく聞き、家庭と協力しながら生徒を育てることを大切にしています。
- 【保護者】 ⑮学校職員は、子どもや保護者の話をよく聞き、子どもや家庭に対して適切な対応をしている。
- 【生徒】 ⑮家の人と学校での出来事や将来について話すことがあります。



<考察>
 昨年度と比べて、職員と保護者に大きな変化はないものの、生徒のA B評価が6%増加している。年々、キャリア教育が充実して、学校のことや将来の進路選択についての家庭での語らいが充実してきた成果、と考察できる。職員は、保護者や生徒の話を聞く場面を一層増やして、聞いたことに誠意をもって対応していく。

【質問項目16】 家庭との連携（参観日・学校開放）

- 【職員】 ⑩参観日や学校開放日や懇談会などを通して、本校への理解や関心を高めてもらえるよう、努めています。
 【保護者】 ⑩参観日や学校開放日や懇談会などの機会には、学校への理解や関心を高めるために、積極的に参加している。
 【生徒】 ⑩親や家族は学校での活動や行事に関心をもって来ています。

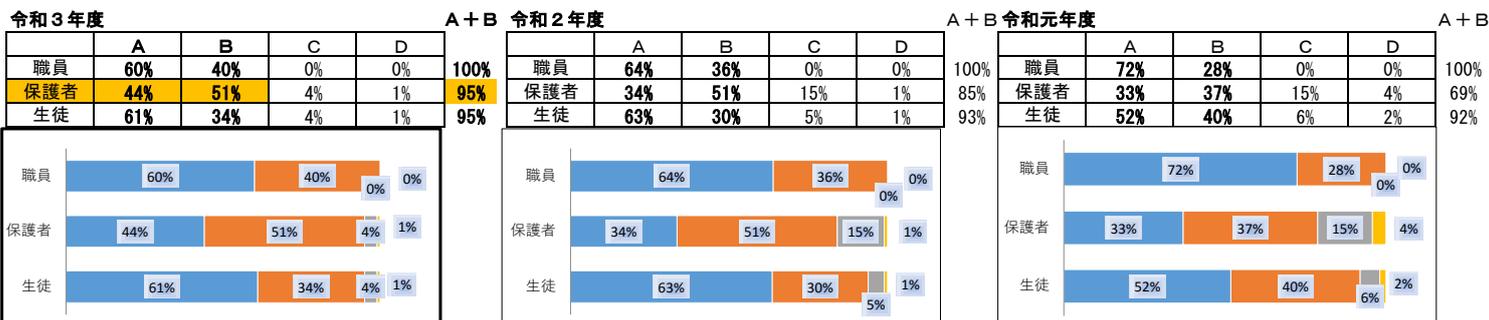


<考察>

新型コロナウイルス感染防止のために、3回の授業参観を中止して、当日は学年・学級PTAのみを開催した。また、7月に設定した2日間の自由参観日も含めて、多くの保護者が来校して、子どもや学校の様子を参観することができた。3者の評価が高いことから、学校と家庭のより良い協力・連携関係を継続していく。

【質問項目17】 学校からの情報発信

- 【職員】 ⑩学校・学年・学級だよりなどで、大切な情報や学校での子供たちの様子を、家庭にわかりやすく伝えています。
 【保護者】 ⑩学校・学年・学級だよりやホームページ等に目を通し、学校の様子を知るよう心がけている。
 【生徒】 ⑩学年・学級だよりは、学校の様子を家に伝えてくれるよい手段になっていると思います。



<考察>

南中HP（ホームページ）の更新に努め、最新情報に加えて、各学年の学年通信や学校だよりも発行のたびにHP上にアップしてきた。一日当たり平均十数名の方が、南中HPを見ていることから、学年通信や学校だより同様、さらに工夫加えていきたい。また、重要なお知らせについては、メール発信を継続していく。

全体の総括

【集団づくり】

○三者ともに、「よくあてはまる」「ややあてはまる」のA B評価が高水準を示している。特に保護者への「授業参観や生徒（お子さん）の話から、生徒（お子さん）は級友と仲良くなかわりながら学校生活を送っていると感じる」という質問に対して、A B評価が前年比5ポイントアップの97%となっている。コロナ禍で、集団づくりに関わる活動が様々な制約を受け、保護者も授業参観の機会が減少する中、子どもからの話や学校から発信されるお便りなどを通して、学年や学級の集団づくりが十分な成果をあげている様子を推測することができたのでは、と考察できる。また、子どもたち自身が感じているの集団生活を通しての成長、成長に伴う達成感や充実感を、親子で共有しているとも考察できる。学校への並々ならぬ保護者の皆さんのご協力やご支援がありましたことを、心より感謝します。

○保護者への「学校の職員は生徒（お子さん）の理解に努めたり、何かあったときは相談に乗ったりしてくれます」という質問に対して、A B評価が昨年度比5ポイントダウンの88%となっている。昨年度、新型コロナウイルス感染拡大を防止するための4月と5月の臨時休校時、学級担任を中心に、いくどとなく家庭訪問をさせていただいた。休校後も、集団づくりに不可欠な担任と生徒、担任と保護者との人間関係づくりに努めてきた。今年度も同じスタンスで取り組んできたが、悩みや不安を抱えたり、学校や学級という集団に自分の居場所を見つけられなかったりする生徒に対して、彼らの変化や成長に注視し、心に寄り添いながらできる限りの支援を強化していきたいと感じる。

【習慣づくり】

○清掃と下駄箱の靴そろえについて、保護者と生徒のA B評価は、昨年度とほぼ同水準で高い。一方、職員の評価がポイントダウンしている。生徒と共に活動したり、生徒への声がけをしたりして、生徒の活動をさらに活性化するとともに、良好な学習環境を整える役割を担っていることを自覚していきたい。

○家庭学習について昨年度比で、保護者のA B評価は10ポイントダウン（48%→38%）、一方で生徒は5ポイントアップ（55%→60%）している。特に、割合で考えると、保護者の3人中2人は、家庭学習をあまり評価していない。両者の隔たりを埋めるべく、職員は公正で的確な支援に努めていきたい。

○より良い生活習慣づくりとメディアコントロールについて昨年度比で、生徒と保護者のA B評価がポイントアップしている。新型コロナウイルス感染予防のために、規則正しい生活を心がけてきた成果、と考察できる。ポイントアップしたのは事実であるものの、昨年度と同様に、保護者のメディアコントロールA B評価が50%前後と低水準を示している。いまだにメディアを適切にコントロールできない一部の生徒に対して、保護者は問題意識を抱えていると推測できる。学校での支援と同時に家庭内でのルールづくりを推進していく必要がある。

【家庭や地域との連携】

○質問項目14の総合的な学習(地域学習・キャリア学習)、15参観日・授業開放、16家庭との連携(参観日・学校開放)、17学校からの情報発信の項目全てについて、昨年度比(項目14については、一昨年度比)で保護者のAB評価が5ポイント以上アップしている。14については、生徒も同様となっている。新型コロナウイルス感染拡大予防のために、保護者の学校や地域社会に対する意識が一層高まり、子どもへの数々の支援が、学校や地域社会と連携・協力しながら実行されているという様子を考察することができる。

○保護者の総合的な学習に対するAB評価が、一昨年度と比べて60%から80%と大幅にポイントアップしている。生徒の一生懸命な取り組みや発表を、文化祭当日に直に見聞きたり、学校・学年だよりやホームページでの発信を受信したりする保護者の姿勢がわかる。お便りやホームページに一層の工夫を加え、家庭と地域社会と学校の三者による連携・協力関係を高め、より良い子育て支援を推進していきたい。

○項目15の保護者への質問「学校職員は、子どもや保護者の話をよく聞き、子どもや家庭に対して適切な対応をしている」について、高い評価をいただいている。本校では、朝夕に「担任の先生とお話したい」という保護者からの電話連絡が多い。保護者の期待や要望に応えるべく、生徒のさらなる成長を職員全員が手を携えて支援していきたい。

2. 生徒・保護者の皆様からの意見について

「地域とともに歩む学校」を推進する学校運営に対しまして、保護者の皆様より多くのご賛同いただいておりますことに感謝申し上げます。「生徒の個性を尊重した対応をしていただき、ありがたい」となどという旨の記入がたくさんあり、職員一同勇気と元気をいただきました。また、生徒の皆さんからも貴重なご意見をいただきました。

以下のご意見・ご指摘いただいた点につきましては、今後、検討・改善をまいります。

(1) 通学スクールバスについて

- ・バスの定員数が不足する場合、受験を控えた3年生を先のバスに乗車してもらうなどの配慮をしていきます。加えて、バス会社とは、生徒が最適に登下校時にバス乗車できるよう、連絡を密にとってまいります。また、休日の部活動生徒へのバス運行につきましては、引き続きバス会社に要望してまいります。

(2) 通学路について

- ・保護者から「生徒が安全に通学できるよう、歩道の整備をお願いします」というご意見がありました。他県で、通学途中の小学生の列にトラックが飛び込むという悲惨な事故が今年度あり、全国で危険な通学路の確認・改善が始まろうとしています。7月実施のPTAアンケートにおいて、「危険な通学路を、すぐに変更してほしい」というご意見もあり、係職員が現地を巡回しました。早速に、対象生徒を集めて、通学路の変更を確認しました。このような取り組みを、継続してまいります。また、依田窪病院付近の遊歩道の雑草除去への要望につきましては、長和町に除去を連絡しておきます。

(3) 学校からの情報発信について

- ・保護者から「学級だよりも、次週の予定を掲載してほしい。特に、親が知っておくべきことを。」というご意見がありました。善処してまいります。合わせて、学校だよりや学年だより(どちらも、学校ホームページにもアップ中)もご覧ください。また、7月実施のPTAアンケートにおいて、「通学路の危険に関することについては、すぐにメールなどで伝えてほしい」という要望がありました。メールをこまめに発信して、学校からの情報を確実に保護者に伝えるよう努めます。

(4) 部活動について

- ・保護者から「週2回の延長部活のお迎えがたいへん、子どもが自分で帰れる時間に終了させてほしい」というご要望がありました。日没に合わせた部活動終了時間にしているため、主に冬期間の部活動時間確保を図るための延長部活です。部顧問からの説明の通り、希望者が対象です。無理のないように、参加をご検討ください。
- ・また、「保護者からの要望を、もっと取り入れてほしい」というご意見については、保護者との話し合いをさらに深めるよう努めていきます。

(5) 制服などの服装について

- ・生徒から「常時、セーターやカーディガンで過ごしてもよしとしてほしい」という要望がありました。学校生活の服装の原則は、制服着用です。どのような理由による要望かも含めて、まず生徒指導係で検討してまいります。
- ・保護者から「夏季の服装について、他校のように紺色の運動着(ポロシャツ)を認めてほしい」というご要望がありました。猛暑時における服装について、生徒指導係で検討してまいります。

(6) 授業について

- ・生徒から「わかりやすい授業をしてほしい」「自分の機嫌を授業に持ち込まないでほしい」「気分できつくあたらないでほしい」というご意見がありました。もったいな意見です。すぐに改善してまいります。
- ・「わかる授業、たのしい授業」づくりのために、年に2回授業アンケートを実施しています。全職員が、生徒の学力向上を実現するために研修に邁進するとともに、アンケート結果を真摯に受け止めて、授業改善に努めてまいります。

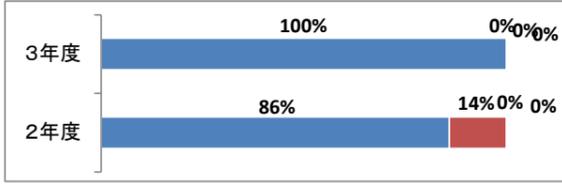
(7) その他

- ・学校の皆が気持ちよく生活するために、生徒から「学年を問わずみなであいさつをしよう」「レクを行う」「冬は寒いので、朝の時間に軽いストレッチを行う」「不要物チェックを強化する」「悪口を言っている人がいたら、遠慮なく先生に言う」などの、前向きで建設的な意見をいただきました。貴重な意見です。ありがとうございます。
- ・保護者から、7月実施のPTAアンケートも同様に「武石地区の給食費徴収方法を改善してほしい」というご意見がありました。学校でも、PTA役員会でも改善案を検討しています。武石地区保護者の負担をできる限り軽減したいと考えています。

I 学校経営全般

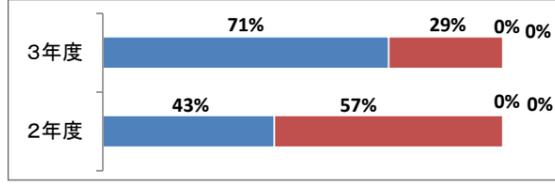
①依田窪南部中学校の教育目標は、生徒の実態や保護者や地域の願いを踏まえたものになっている。

①	A	B	C	D	計
全体	7	0	0	0	7
3年度	100%	0%	0%	0%	100%
2年度	86%	14%	0%	0%	100%



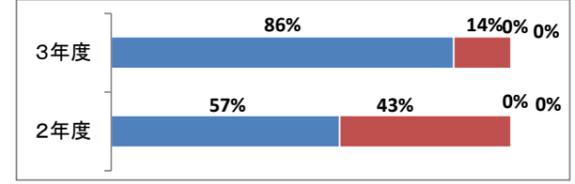
②学校は教育方針をわかりやすく伝えている。

②	A	B	C	D	計
全体	5	2	0	0	7
3年度	71%	29%	0%	0%	100%
2年度	43%	57%	0%	0%	100%



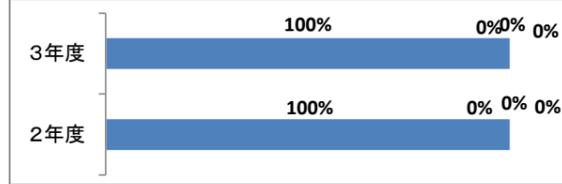
③依田窪南部中学校の教育活動は、本年度の重点目標を反映したものになっている。

③	A	B	C	D	計
全体	6	1	0	0	7
3年度	86%	14%	0%	0%	100%
2年度	57%	43%	0%	0%	100%



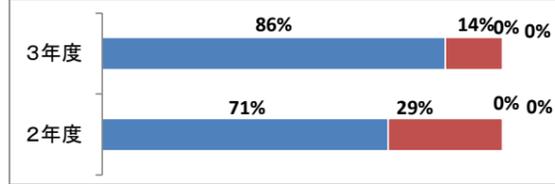
④依田窪南部中学校は、特色ある教育活動を行っている。

④	A	B	C	D	計
全体	7	0	0	0	7
3年度	100%	0%	0%	0%	100%
2年度	100%	0%	0%	0%	100%



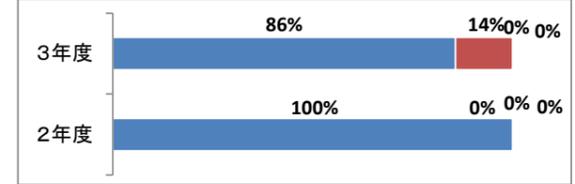
⑤依田窪南部中学校は、生徒の思いを大切にされた教育活動を行っている。

⑤	A	B	C	D	計
全体	6	1	0	0	7
3年度	86%	14%	0%	0%	100%
2年度	71%	29%	0%	0%	100%



⑥学校の施設・設備は、清掃が行き届ききれいで安全に管理されている。

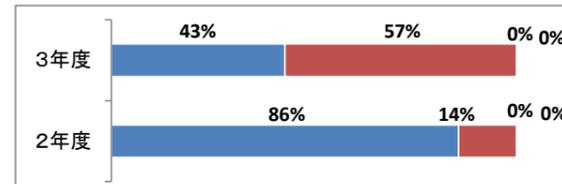
⑥	A	B	C	D	計
全体	6	1	0	0	7
3年度	86%	14%	0%	0%	100%
2年度	100%	0%	0%	0%	100%



II 生徒について

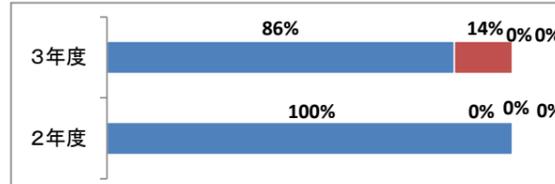
⑦生徒は、すすんであいさつをしたり、場に応じた言葉遣いができたりしている。

⑦	A	B	C	D	計
全体	3	4	0	0	7
3年度	43%	57%	0%	0%	100%
2年度	86%	14%	0%	0%	100%



⑧依田窪南部中学校は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる。

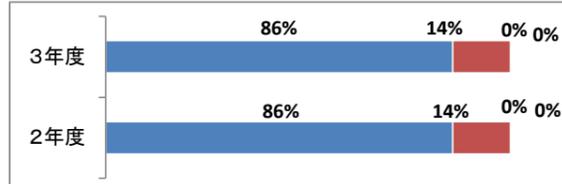
⑧	A	B	C	D	計
全体	6	1	0	0	7
3年度	86%	14%	0%	0%	100%
2年度	100%	0%	0%	0%	100%



III 教職員について

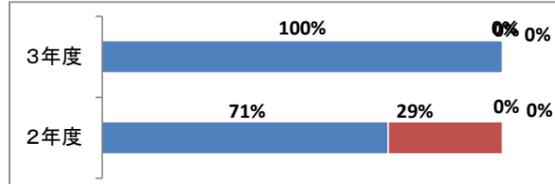
⑨教職員は、生徒の立場に立って物事を考え、温かい気持ちをもって生徒と接することができる。

⑨	A	B	C	D	計
全体	6	1	0	0	7
3年度	86%	14%	0%	0%	100%
2年度	86%	14%	0%	0%	100%



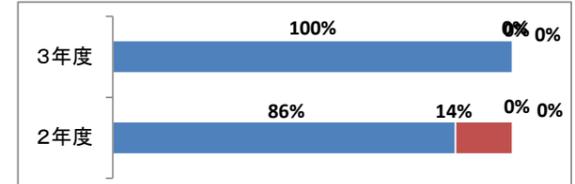
⑩教職員は、生徒が興味関心のもてる授業、わかりやすい授業の工夫をしている。

⑩	A	B	C	D	計
全体	7	0	0	0	7
3年度	100%	0%	0%	0%	100%
2年度	71%	29%	0%	0%	100%



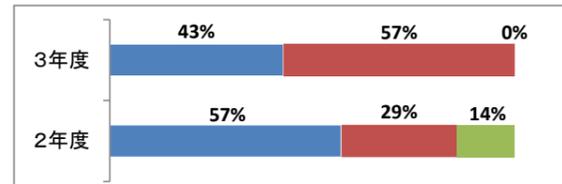
⑪教職員は、生徒に基礎的・基本的な学力を身につける努力をしている。

⑪	A	B	C	D	計
全体	7	0	0	0	7
3年度	100%	0%	0%	0%	100%
2年度	86%	14%	0%	0%	100%



⑫教職員は、地域との連携を大切に、教育活動を推進したり、地域の方々との交流をしたりしている。

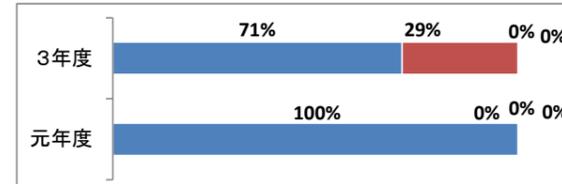
⑫	A	B	C	D	計
全体	3	4	0	0	7
3年度	43%	57%	0%	0%	100%
2年度	57%	29%	14%	0%	100%



IV 地域との連携

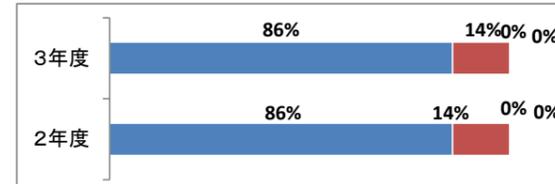
⑬1年：地域発見、2年：職場体験、3年：地域未来プロジェクトの学習は、子供たちがこの地域のよさを実感できる学習になっている。 ※昨年度(令和2年度)は未評価

⑬	A	B	C	D	計
全体	5	2	0	0	7
3年度	71%	29%	0%	0%	100%
元年度	100%	0%	0%	0%	100%



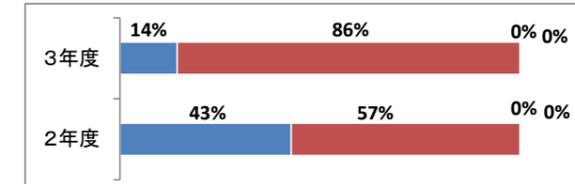
⑭学校は家庭や地域社会とともに生徒を育てていくという視点に立って学校運営を心がけている。

⑭	A	B	C	D	計
全体	6	1	0	0	7
3年度	86%	14%	0%	0%	100%
2年度	86%	14%	0%	0%	100%



⑮学校は保護者・地域の人々に分かりやすく情報を発信している。

⑮	A	B	C	D	計
全体	1	6	0	0	7
3年度	14%	86%	0%	0%	100%
2年度	43%	57%	0%	0%	100%



第2回学校関係者評価委員会(11月10日実施)報告

(学校評議員の方からいただいた授業の感想)

- ・授業中の生徒の様子や掲示物を見て、生徒の成長を感じました。
- ・タブレット端末を使いながら、わかりやすく説明したり、教え合ったりする場面が見られた。
- ・タブレット端末に検索事項を入力する時、入力がおぼつかない生徒がいた。掲示物・展示物で古くなっているものがあった。
- ・3年生は難しい学習内容に、落ち着いて取り組んでいた。自分の子どもを見るような気持ちになった。きれいな校舎で、学習環境が良い。
- ・先生方が工夫した授業をして、学習に取り組む生徒の良い姿を見ることができた。
- ・時々、学校前を通る時、「学校が静かだなあ」と感じる。昔は、もっとワーワーしていたり、学校を飛び出したりする生徒がいた。授業参観で、生徒の真剣に積極的に学習に取り組んでいる姿が見られた。中には、おたや祭りで「浦安の舞」を披露する生徒もいて、伝統文化を今後も引き継いでほしい。
- ・保護者が授業参観で来校した時、自分の子どもの作品が展示されているとうれしい。展示作品をチェンジしていくとよい。また、卒業生の作品が「3年〇組」と表示されているので、「卒業生」と修正するとよい。
- ・2年生の3日間におよぶ職業体験学習、3年生の地域の将来を考える学習、ともに熱心取り組んだ素晴らしい学習となっている。